

## 海よりも深く

### ～和歌山県太地町と西オーストラリア州ブルーム町の 姉妹都市交流～

和歌山県太地町総務課

#### 歴史的なつながり

##### 一太地からブルームへの移民

インド洋に面したブルームという西オーストラリアの小さな町に、多くの日本人が眠る広大な墓地があることをご存じでしょうか。

太地とブルームが姉妹都市関係を結ぶに至った背景には、両町の歴史的な強いつながりがあります。太地町では古くから捕鯨が行われてきましたが、1878年、「背美流れ」と後に呼ばれた遭難事故で100人以上が行方不明となり古式捕鯨は衰退しました。それを一つの契機として、明治20年代から多くの太地人が海を渡りました。西オーストラリア州ブルームへ渡った男性たちは、高度な潜水技術を要する真珠貝採取漁業に従事しました。事故も多く、ブルームには数十人の太地人のものを含む700基以上の日本人の墓があり、現地の人々によって今も大切に管理されています。

#### 姉妹都市締結30周年記念式典

2011年6月、ブルームと太地が姉妹都市提携を結んでから30周年になるのを記念して、ブルーム町長グラム・キャンベル氏をはじめ、前町長、町議会議員、ブルーム在住の最後の太地出身者である増田晃氏など合計9人が太地町を訪問しました。両町長は姉妹都市提携再確認同意書に署名調印し、両町の絆の重要性を改めて確認しました。歓迎会には、かつてブルームで働いていた人々や太地中学校の生徒も駆けつけました。訪問団の全員と町民の代表がそれぞれの思いを壇上で語った後、鯨踊りなどの伝統芸能が披露されました。訪問団は観光名所に加えて、太地中学校で生徒が用意した交流プログラムに参加し、また姉妹都市提

携30周年を記念した特別展や、「ブルーム通り」と命名された役場前の道を見学するなど、太地で有意義な時間を過ごしていただけたようです。

#### 子どもたちがつなぐ姉妹都市関係

2008年から、子どもたちに2つの町の歴史を知ってもらい親交を深めてもらうために、それぞれの町でホームステイをする青少年交流事業が開始されました。太地中学校のパートナーであるセント・メアリーズ・カレッジは1912年に設立されました。ブルームで布教を始めた2人の修道女が、現地にいた日本人の子どもたちに1908年から授業を始めたのが学校のはじまりと伝えられています。

これまでにブルームへの生徒派遣は5回、太地への派遣は3回を数えています。現在ではそれぞれの町における歓迎会において披露されるダンスや歌、劇などのパフォーマンスが恒例になり、年を追うごとに盛り上がりを見せています。

2013年には、ブルームと太地の両校長がお互いの町を訪問するという機会に恵まれ、特に学校同士の交流が深まりました。4月末にセント・メアリーズ・カレッジの生徒11人とマイケル・ペッパー校長を含む引率者6人、計17人が太地町を訪れま



太地町の歓迎会にて、ダンスを踊る太地とブルームの先生と生徒たち



ブルームにて、太地訪問団とホストファミリー、地元の人々

した。歓迎会では両校長をはじめ先生も生徒もステージに上がり、みんなで踊って和やかな雰囲気となりました。同年8月には、太地町から6人の生徒と太地中学校の小坂康夫校長を含む4人の引率者、合計10人がブルームを訪問しました。歓迎式典では、ブルームの生徒たちが太地で習っただるま落としやけん玉などを披露し、太地訪問団を喜ばせてくれました。

青少年交流に参加する太地の生徒の中には、ブルームで亡くなった先祖をもつ子どもたちが毎回存在します。ブルームに実際に足を踏み入れ、ブルームの発展のために日本人が大きく貢献した事実を学ぶことで、生徒たちは自分自身を太地とブルームの交流の歴史の中に位置付けることができたのではないのでしょうか。

## 「移民の歴史」学習—先人について学ぶ

太地町の教育方針では、義務教育段階で「捕鯨の歴史」および「移民の歴史」を学ぶべきであるとうたわれています。

2011年には3年生の「総合的な学習の時間」の実践として「移民の歴史」学習が行われました。学習を終えた生徒たちは「太地の人々がどれだけ苦勞してお金を稼いでいたかがわかった」、「今の太地とブルームの関係は、移民となったたくさんの人たちがいたからこそあるのだなと改めて思った」などと述べています。生徒たちにとって「移民の歴史」学習が地域の歴史を知る上でとても効果的な学習機会となっていることがわかります。

それらを踏まえ、今年度より太地中学校では「総合的な学習の時間」の中で、「移民についての知識と理解を深め、太地を愛する心を育てると

もに国際理解を深める」という目標で、アメリカ、カナダへの移民を含む「移民の歴史」学習の時間を全学年で設けようという取り組みが始まっています。

## 日本人墓地—盆供養祭、墓地調査

2012年8月には浄土真宗本願寺派オーストラリア開教事務所の渡辺重信住職が招かれ、日本人墓地において盆供養祭が開催されました。姉妹都市交流関係者をはじめ地元住民も多数参列しました。この年のブルームへの中学生派遣は盆供養祭に合わせて日程を調整し、太地の子どもたちもこの供養祭に参加しました。ホストファミリーたちと協力して、700基以上あるお墓の一つ一つに花とキャンドルを供えました。幻想的な雰囲気の中、参列者全員がすべてのお墓に供えられたキャンドルに火をともし、遠い異国の地で亡くなった人々に思いをはせました。

また2013年には太地町歴史資料室とブルーム町役場が協力し、新たに発見された西オーストラリア州政府による埋葬記録も使いながら日本人墓地調査を実施しました。埋葬記録と碑文を照合することで無縁仏となっている被葬者の名前が判明する可能性もあります。

## 太地とブルームの交流の未来

太地とブルームの間には興味深い歴史的な関係があり、現在も多様な交流が行われています。2014年2月には太地町立石垣記念館において、移民をテーマにした展示が太地町歴史資料室によって開催される予定です。さらに2008年から2013年の青少年交流に参加した太地とブルームの生徒の作文をまとめて2か国語で出版することも検討中です。また太地町の広報誌では「ザ・パールズ」と題して、ブルームとの交流に関する記事を毎号掲載しています。セント・メアリーズ・カレッジの広報誌においても太地との交流に関する写真付きの記事がしばしば大きく掲載されています。

今後も青少年交流がますます盛んになり、両町の歴史が多くの人々に広く認識されることが期待されます。